

ACANTHUS NEWS



平成16年 **2004.10**
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第94号



文部科学省の競争的資金獲得 専門職大学院形成支援，海外先進教育研究，現代的教育ニーズ

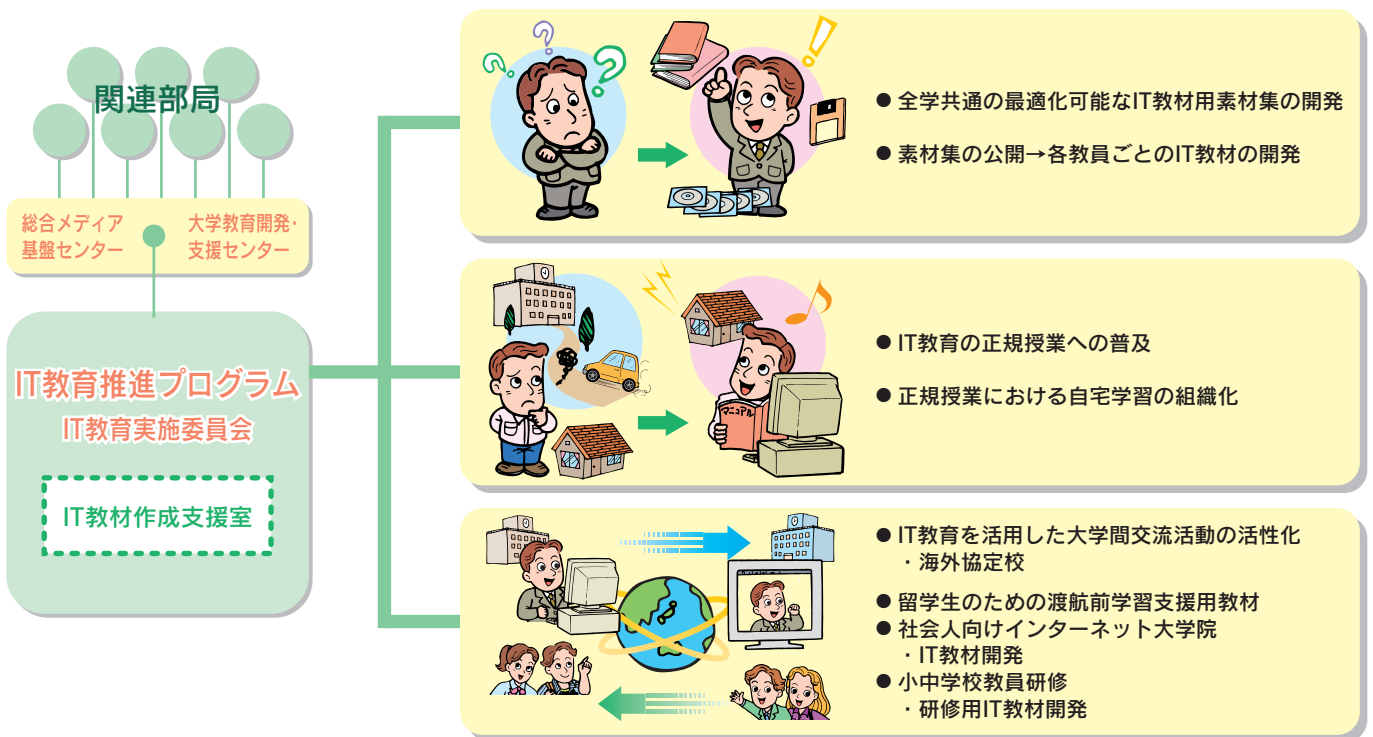
9月中旬から下旬にかけて文部科学省が審査結果を発表した競争的資金に、本学から申請していたプログラムが次々と採択された。法務研究科が申請した「法情報センター北陸」設置プロジェクトは、専門職大学院形成支援プログラムの「実践的教育推進プログラム」に、12件申請していた「海外先進教育研究実践支援プログラム」には10件が、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」には本学単独申請の「IT教育用素材集の開発とIT教育の推進」と、県内19の高等教育機関共同申請の「大学連携による「知」の拠点の創出ーいしかわシティ

カレッジの整備・充実」が採択された。

特に、「現代的教育ニーズ」は、国公立大学から申請559件中86件、採択率15.4%の狭き門での採択となった。IT教育推進は、自己学習の組織化やIT教材作成支援室の設置などの組織的対応が優れた取組として、また、シティカレッジは、大学教育の高度化と効率化、地域の活性化という現代的教育ニーズに合致し、教育の場を重視している点で特に優れた取組として評価されたもの。

以下に、IT教育推進プログラムの概念図を示す。

◆ 「IT教育用素材集の開発とIT教育の推進」プログラムの概念図



巻頭言

情報の公開と保護の間で



理事・副学長
橋本 哲哉

「情報公開」「説明責任」という言葉はこの手の原稿や議論にはしばしば登場し、キーワードとなりつつある。研究・教育を預かる大学とて例外ではない。どちらかと言えば後ろ向きだった姿勢を転換し、大学も様々な情報開示に踏み切って久しい。情報を担当する立場から、その意義をここで強調しても何をいまさらと見向きもされないであろう。

ところで、個人情報保護法というものの存在をご存じの方はどの程度おられるだろうか。9月初旬の全国紙に「個人情報保護法、来春に本格施行 企業、漏洩怖い」という見出しの特集記事が載ったので、それをご覧になったかもしれない。内容はかなりセンセーショナルで、来年以降個人の情報（例えば氏名・住所などの入った顧客名簿、あるいは名刺）を漏洩させた場合、1件最高150万円の賠償額となると試算されている。名刺一枚を落としたり、最高この金額の保証を覚悟しなければならない世界がやってく

るわけである。「中小企業は数十件でも（情報が）漏れたら再起不能だ」とあるのもうなずける。

もちろん、これは民間企業サイドの他人事では済まされない。独立行政法人個人情報保護法なる法律もすでに制定されていて、同様に来年4月から施行される。こちらについて、予備知識のある方はそう多くなかろうかと思う。文部科学省で先ごろ行われたセミナーの報告を聞くと、民間の場合と行政機関とは法律が異なるので対象や基準はおのずと違ってくるが、どちらが厳しく、どちらが緩やかなルールが用意されているか、一概には断定できないのである。

研究と教育は、簡単に言えば個人情報の積み重ねによって営まれてきたと言っても過言ではない。そしてそこには長年培われてきた「暗黙の紳士協定」のようなものが存在した。しかしそれではもはや通用しない。その世界にあっては、学生の個人の成績を漏らしたり、あるいは大学で使用するパソコン内の個人記録の一部が漏洩した場合、即賠償金を請求されることを覚悟せねばならないのである。やりにくい時代がもうすぐ目の前に迫って来ている。少なくとも何を個人情報として保護し、何を大学情報として公開するか、仕分けにとりかかればなるまい。

目次

文部科学省の競争的資金獲得 専門職大学院形成支援、海外先進教育研究、現代的教育ニーズ	8
巻頭言 情報の公開と保護の間で	2
9月期学位記・修了証書授与式	3
50周年記念館移築始まる	3
その時あなたは どうしますか？	3
高速原子間力顕微鏡の開発がJST事業に採択	4
足立研幾助教授（法学部）の著書が 第15回カナダ首相出版賞を受賞	4
実験動物慰霊式	4
イノベーション・ジャパン2004に出展	5
ジョージア医科大学医学部長が 講演米国医学教育の目指すもの	5
学内各種情報の電子化・データベース化を議論	5
電気関係学会北陸支部連合大会	5
21世紀COEプログラム 「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」 －文理架橋型研究による挑戦の第一ステージ－	6
北陸地区国立大学連合双方向遠隔授業システムの紹介	7
障害学生支援と学習支援をテーマに全学研究会	8
学外進学説明会を3会場で開催	8
学務系事務職員に SD（スタッフ・デベロップメント）研修会	8
レーゲンスブルク大学のサマーコースに学部生20名参加	9
留学生、「金沢学」夏コースで能登の文化・自然を学ぶ	9
外国人学生に本学をPR	9
うつ病治療薬の正しい使い方を市民らに解説	9
本学へのお客さま	10
薬学部留学生実地見学旅行	10
附属病院講演会「医療訴訟の動向と紛争対応」	10
福村さん（医学系研究科職員）が金メダル獲得	10
ミニ講演 若者の職業観～フリーターで大丈夫？～	11
公開講座	11
生涯生活設計セミナー開催	11
新任係長・専門職員研修	11
工学部 新任教員対象に研修	11
「北谷」で稲刈り 一角間の里山自然学校へ	12
ほんものはいいいねえ	12
角間キャンパスにクマ現わる?!	12
編集後記	12

トピックス

9月期学位記・
修了証書授与式

平成16年度9月期の学位記・修了証書授与式が9月30日に
 挙行され、学部生34名、修士（博士前期）7名、博士（博士
 後期）60名、計101名に学位記が授与された。

林勇二郎学長から学位記を受け取る学部生代表
 =事務局大会議室



上棟式で棟木を引き上げる林学長・各理事ら

50周年記念館移築始まる

9月13日、「金沢大学創立50周年記念館（仮称）」の移築説明
 会が角間キャンパス50周年記念エリアで行われた。移築される
 古民家「山口新十郎家」は、代々白峰村桑島地区の豪農（大庄
 屋）で歴史と風格を併せ持つ山家であったため、白峰村指定有形
 文化財として保存されていた。17年3月末までに移築を終え、来
 年度から里山活動など本学の社会貢献の基地として利用される。

説明会では上棟式に続き、林学長らの祝辞、移築概要説明
 が行われ、出席者らは“里山自然学校の拠点”として生まれ
 変わる古民家の新しい役割に大きな期待を寄せていた。

その時あなたはどうしますか？

9月25日医学部附属病院は、「その時あなたはどうします
 か？」をテーマに、金沢市周辺で震度6弱の地震が発生した
 と想定して、多数の負傷者の受入れ訓練を初めて行った。患
 者役の学生のメイクと臨場感あふれる演技で、訓練会場は実
 践さながらの緊迫感に包まれ、初めての訓練としては十二分

の成果を得ることができた。

参加者は訓練前日に国立病院東京災害医療センターの邊見
 弘院長から、災害に備えての準備、役割分担、心構えなどにつ
 いて講義を受け、訓練に向けて気合を入れた。



病院玄関でのトリアージ（患者区分け）



待合室を利用した軽症患者の手当て

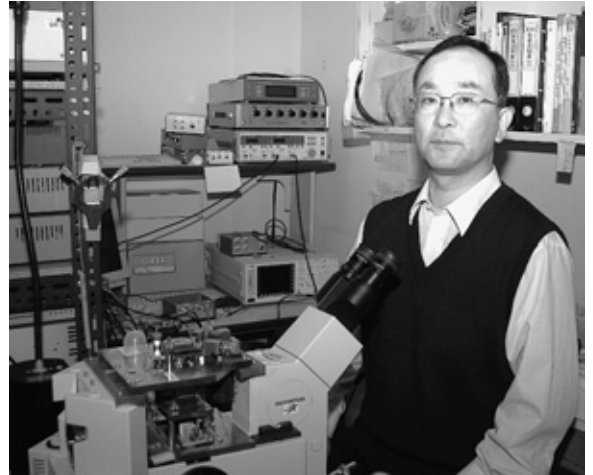


重症患者の手当て

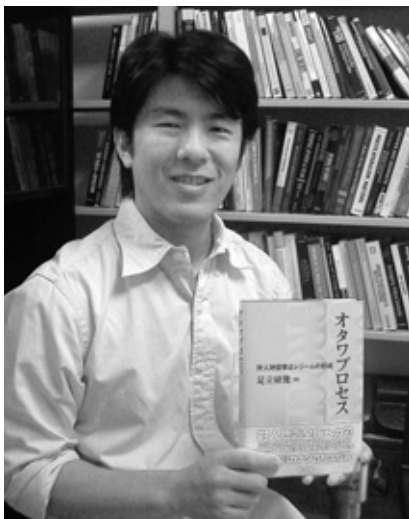
高速原子間力顕微鏡の開発がJST事業に採択

自然科学研究科安藤敏夫教授が取り組んでいる高速原子間力顕微鏡（高速AFM）の開発が、このほどJST（科学技術振興機構）の戦略的創造研究推進事業（CREST）に採択された。今後5年間で、2001年に開発された高速AFMを改良し、タンパク質間の相互作用をあるがままに、より高速・高解像度で見ることのできる装置を開発する計画で、予定事業費は3億5千万円。安藤教授と高速AFMの開発で共同研究を進めているオリンパス株式会社も、JSTの先端計測分析技術・機器開発事業に採択された。前者がより高機能の装置の開発を目指すのに対し、後者は製品化を主眼に多くのユーザーに使いやすい製品の開発を目指している。

この高速AFMの開発により、タンパク質が機能する仕組みの解明が容易になり、分子生命科学の基礎研究の底上げと、医薬品業界などの研究開発、病院での遺伝病などの検査に利用されることが期待されるという。



高速AFMを前にする安藤教授



足立研幾助教授(法学部)の著書が第15回カナダ首相出版賞を受賞

9月に出版された法学部の足立研幾助教授の著書『オタワプロセス—対人地雷禁止レジームの形成』（有信堂高文社、2004年）が第15回カナダ首相出版賞を受賞した。この本は、カナダ政府が国際社会をリードし対人地雷全面禁止条約を形成した「オタワプロセス」と呼ばれる条約交渉過程を、豊富な資料と関係者へのインタビュー等を駆使して詳細に分析したもので、「オタワプロセス」がいかに開始され、成功を収めたのかを正面から扱う研究が、カナダ政府から高い評価を得た。授賞式は7月12日、東京カナダ大使館で行われた。

著書を手にする足立助教授
＝研究室

実験動物慰霊式

平成16年度の実験動物慰霊式が9月16日執り行われ、約220名の関係者が参列した。最初に、山口和男学際科学実験センター長がこの1年間に医学・薬学・がん研究のために犠牲となった動物に対し感謝の言葉を述べた。続いて参列者が献花を行い、実験動物に対して感謝の気持ちを表した。



献花する山口センター長
＝学際科学実験センター実験動物研究施設前

イノベーション・ジャパン2004に出展

9月28日から30日にかけて、東京千代田区の東京国際フォーラムで開催された大学発知の見本市「イノベーション・ジャパン2004」に本学から出展した。この催しは、全国の大学から技術シーズを持つ大学教員が集まって一堂に会し、企業担当者と直接議論を交わすことで、企業への技術移転を図ろうとするもの。

本学ブースでは、JSTの戦略的創造研究推進事業に採択された「高速原子間力顕微鏡」をはじめ、8月に開催した「金沢大学との連携による新技術説明会」で好評を得た5件の研究を展示し、多数の来場者の関心を集めた。



キャッチコピーを示しながら研究成果を紹介



米国の医学教育について講演するスターン博士
＝臨床第一講義室

ジョージア医科大学医学部長が講演 米国医学教育の目指すもの

9月22日、米国ジョージア医科大学医学部長のデイビットM・スターン博士が、医学部と本学21世紀COEプログラム（革新脳科学）が共催する国際交流セミナーで、教職員や学生ら約100人を前に特別講演を行った。博士は、米国における医学教育の現状や医学部の改革について詳しく説明し、世界一の医療大国としての悩みや、国民から求められる医学医療に応えるために、米国医学教育の目指すものについて熱く語った。

学内各種情報の電子化・ データベース化を議論

総合メディア基盤センターは、学内の各種情報の電子化・データベース化の推進と、その利活用方法を議論する第2回「金沢大学データベースフォーラム」を9月6日に開催した。学外者を含む50名余りが出席し、東京大学の黒橋禎夫助教授による招待講演や学内教職員らによる8件の講演が行なわれた。



黒橋助教授の講演＝総合メディア基盤センタープレゼンテーション室

電気関係学会北陸支部連合大会

9月17日、18日工学部を会場に、電気関係学会北陸支部連合大会が開催された。大会を「産学官連携の場」と位置づけ、特別講演1件、招待講演6件、一般講演475件が行われ、2日間で延べ1400人の参加があった。また、4件の共同研究の成果を含めた展示や150件のポスター発表があった。



参加者が多く訪れたポスター発表＝9月17日、工学部秀峯会館

特集

21世紀COEプログラム
「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」
 -文理架橋型研究による挑戦の第一ステージ-

どのような研究か？

人の精神活動の解明は人が人を理解する究極の目的です。しかし「どのような言葉（分子）」で発達学習や記憶過程を理解できるかは、未だ解決されていません。

本プログラムは、教育現場で生じ社会問題化している自閉性、アスペルガー症候群、多動症、学習障害などの発達障害児にかかる脳機能障害に真正面から取り組み、その原因と脳の発育メカニズムを解明する課題に挑戦し、世界最高水準の教育研究拠点の形成を目指しています。

具体的な研究内容は？

- ① RNA技術を用いてショウジョウバエの発達・学習・記憶関連の遺伝子を取り出し、その機能を解明する
- ② マウスなどを用いて、脳の神経回路発達の基本原理を解明する
- ③ 遺伝子改変マウスを作製し、遺伝子の機能を解明する
- ④ 非侵襲脳機能測定技術を用いて幼児・学童の脳神経活動を測定し、発達・学習・記憶と障害メカニズムを解明する

脳の基本的しくみである神経細胞間の結合はハエやマウスとヒトで変わらないので、ハエやマウスの脳の機能解明が人間の脳の解明にもつながる

分子・細胞レベルから哺乳動物、さらには人間個体にまで及ぶ機能や挙動をユニークな架橋型研究として推進

生命科学，自然科学，人文社会科学を超えた階層架橋型拠点の形成

脳を育む科学の創成と研究者の育成

- (注) ①アスペルガー症候群:軽度の知的障害で、言語発達の遅れは少ないが他者への共感能力が乏しい症候群
 ②RNA:リボ核酸。すべての細胞の核内及び細胞質内に存在し、デオキシリボ核酸(DNA)の遺伝情報をタンパク質に変える役割をもつ
 ③非侵襲的計測:計測のための外科手術等を伴わない自由行動下での脳神経活動の計測方法

COE拠点形成計画の概念図



ヒトの認知行動・脳障害の非侵襲的脳研究の進め方



事業推進担当者(12名)



拠点リーダーの東田教授

東田陽博教授(医学系研究科) = 拠点リーダー
 片桐和雄教授, 大井 学教授, 小島治幸助教授(以上 社会環境科学研究科)
 狩野方伸教授, 小川 智教授, 山田正仁教授(以上 医学系研究科)
 山田清文教授(自然科学研究科)
 浅野雅秀教授, 平井宏和助教授, 小泉恵太講師, 杉山登志郎客員教授(以上 学際科学実験センター)

北陸地区国立大学連合双方向遠隔授業システムの紹介

平成16年度に予算措置された、双方向遠隔授業システム(以下「遠隔授業システム」)の概要を紹介する。

★遠隔授業システムとは

- ☞ 北陸地区の各国立大学間での双方向による遠隔授業，その他の事業を行うシステム
- ☞ 学術情報ネット（SINET）を介して各国立大学の授業等をリアルタイムに配信
学生…在籍大学で他大学の授業を受講，単位互換制度による単位取得可能
教員…在職大学で自大学の学生に加え，他大学の学生にも同時に授業が可能
- ☞ 学会，研究会又は会議等にも活用可能
- ☞ 16年度末に同システムが北陸地区各国立大学に導入，17年度試行，18年度本格稼働

双方向遠隔授業システムイメージ図

1. 北陸地区6大学の間で、各大学の講義・研究発表を傍聴することができます。
2. 北陸地区6大学の間で、より多くの意見交換が可能です。
3. 講義資料を北陸地区6大学の表示装置に同時に表示させることができます。



★金沢大学において遠隔授業システムを利用できる教室は

- ☞ 総合教育棟5階561号室（現D10示範教室）100人程度の大規模教室 机・椅子は固定式
- ☞ 総合教育棟5階568号室（旧生物学教官研究室）・569号室（旧植物標本室）・570号室（旧動物標本室）3部屋を統合・改修，20人程度の小規模教室 セミ等の少人数教育用 机・椅子は可動式
- ☞ 医学部保健学科大学院棟大講義室（現5号館5104号室）50人程度の中規模教室 机・椅子は固定式

★遠隔授業システムを利用する教室の内容は

- ☞ 教室の後方に設置された二つの大画面のスクリーンにより他大学の教室が映し出される
- ☞ 学生は，後方のスクリーンに映し出された他大学の学生の映像により授業における一体感を持てる
- ☞ 学生による質疑応答等は，各教室の机に設置された発言用のマイク及びボタンにより対応質問する学生に対しては追尾用カメラにより質問者を確認
- ☞ 他大学の教室では，授業を行っている教員，黒板，PC及び資料・教材等の画像が前方に設置されたハイビジョン等によるスクリーンにそれぞれ映し出される
- ☞ 授業で使用する資料・教材等は，ネットワークを介して送信し，学生に印刷配布が可能
- ☞ 学生の出欠の確認は「出席管理システム」により確認
- ☞ 授業内容は，担当教員の下承のもとに授業コンテンツとして自動収録され，学生の予習・復習用とともに教員の授業方法の向上等にも利用できる
- ☞ 小規模教室（20人程度）では，教室の前方の背面投影プロジェクタ2台を用いて講師，学生，PC及び資料・教材等の画像を映し出すことができる

★授業時における教員による機器等の操作は

- ☞ 授業に必要な機器等の操作は，ほぼ自動的にセットされ，通常の教室で行う授業と同様な体制で対応可能
- ☞ 遠隔授業システムでは，当分の間，授業補助者としてTAを1授業につき1名配置予定

★詳細は本学ホームページ参照 <http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kiko/souhoukou/imegetop.html>

障害学生支援と学習支援をテーマに全学研究会

9月13日、障害学生支援と学習支援をテーマに7回目となる教養教育全学研究会が開かれ、本学教職員をはじめ教育関係者らが学生支援について意見を交した。

研究会では、白澤麻弓筑波技術短大助手が、聴覚障害学生の現状を報告し、障害のある学生を前にする教員をサポートする体制の必要性を説いた。また、本学教員が今年度の聴覚障害学生の入学により始まった障害学生支援の現状と課題について報告した。この他、金沢工業大での学習支援の取組み、本学の外国語学習支援への取組みも報告された。

講演者らによるパネルディスカッションでは、出席者から、軽度の障害のある学生への配慮の難しさや、精神障害・学習障害の学生への対応の必要性などの意見が出された。



出席者と意見を交すパネリスト＝金沢大学サテライト・プラザ集会室

学外進学説明会を3会場で開催



高校生らの質問を受ける本学関係者
＝9月18日、ナディアパーク（名古屋市）

広く高校生等に金沢大学をPRし受験生の増加を図ろうと、8月9日大阪、9月11日長野、9月18日名古屋の3会場で進学説明会が開催された。

各学部別の相談ブースでは、高校生らからの質問に対し、教員が入学試験などについて答える一方、本学学生が自らの体験からキャンパスライフなどについて説明した。また、講義室では短い時間ではあったものの、教員が当該学部で学ぶ意義などについて講義を行った。

高校生らにとっては、直接本学の教員や学生から説明を受け、本学への進学を考える貴重な機会となった。

学務系事務職員にSD(スタッフ・デベロップメント)研修会

9月8日、学務系職員を対象に第1回SD研修会が開かれ、中央大学経理研究所 事務室長 横田利久氏が「大学改革と職員の役割―学生サービスを中心に」と題して講演した。この研修会は、学務系職員が学生にきめ細かな指導・助言が行えるよう、意識や態度を変革し、資質と能力の向上を目的に開かれた。

横田氏は、社会の大きな変化と大学の危機のもとで「職員」が担うべき機能・役割の変化を大学改革の実践例を示して講演。学務系職員60名が出席し、学生サービスを中心とした教学現場職員一人ひとりの役割を考えていく上で、今後の大きな参考となった。



教学現場での実践例をもとに話す横田氏＝事務局大会議室

レーゲンスブルク大学の サマーコースに学部生20名参加

大学間交流協定校のドイツ・レーゲンスブルク大学でのドイツ語サマーコースに4学部20名の学部生が参加した。コースは8月29日から9月24日まで3週間の語学研修と1週間弱の自己研修からなり、受講により文学部の異文化体験実習4単位が認められる。授業の他、古都レーゲンスブルクを巡る歴史ガイド、ドナウ川クルーズ、ミュンヘンへの遠足、付属病院見学など多彩な課外活動も行われた。帰国後多数の学生が、再度の参加や留学を希望しているという。



参加者と担当教師全員で記念撮影＝レーゲンスブルク大学

留学生、「金沢学」夏コースで能登の文化・自然を学ぶ

平成16年度金沢大学社会貢献推進事業として、加賀百万石の歴史・伝統芸能及び能登の祭など「文化」について学習・体験する「金沢学」講座の夏コースが、9月20日、21日の両日開催された。

参加した本学及び石川県内各大学の留学生と日本人学生は、中島町で行われた「お熊甲祭」の見学と「能登地域と東アジア地域の交流」、「能登の自然と農業」等の講義により、朝鮮文化の影響を受けた能登の文化や自然について理解を深め、より一層石川県に親しみを感じていた。



「お熊甲祭」＝9月20日、中島町



講義に耳を傾ける参加者
＝9月20日、能登青年の家

外国人学生に本学をPR

「外国人学生のための進学説明会2004」が、8月29日大阪と9月5日東京で開催され、本学もブースを出展、訪れた進学希望者に資料を配付説明し、本学のPRに努めた。



本学ブースを訪れる留学生＝8月29日、マイドームおおさか

うつ病治療薬の正しい 使い方を市民らに解説

薬学部「くすりと健康プラザ」第3回セミナーが9月25日開かれ、医学部附属病院神経科精神科 長澤達也助手がうつ病治療薬の正しい使い方について、症状、診断から治療薬の使い方までわかりやすく市民らに説明した。「くすりと健康プラザ」に寄せられる質問のうち、うつ病治療薬に関するものが最も多く、具体例を交えた説明に参加者はうなずいていた。



「くすりと健康プラザ」（アカンサス薬局2階）で開かれたセミナー

本学へのお客さま



9月6日、工学部との部局間交流協定校であるドイツのイルメナウ工科大学のオリバー・サヴォドニー教授（右から2人目）が来学し、学長と懇談した。同大学からの留学生フェリックス・サヴォさんも同席した。（左から2人目）＝学長室

9月15日、リビアの学術機関 Academy of Graduate Studiesの学長であるサレー・イブラヒム・マブルーク・ムハメド教授（右から3人目）、リビア人民局財務官アブダッラー・イブラヒム・A. アルトラッシュ氏（右から2人目）、本学法学研究科修士アハメド・M. ナイリ氏（左端）が来学し、林学長、大村副学長と懇談した。＝学長室



薬学部留学生実地見学旅行

9月1日から3日間、関東方面への薬学部留学生実地見学旅行が実施され、アジア・アフリカ地域からの留学生12名が参加した。3日目は第一製薬株式会社東京研究開発センターを訪問し、開発室の実験風景、厚生施設を見学した。留学生からは、研究施設の規模の大きさに対する感嘆の声と様々な質問が出て有意義な見学となった。

社員から開発室の説明を受ける留学生
＝第一製薬株式会社東京研究開発センター（東京都江戸川区）



附属病院講演会 「医療訴訟の動向と紛争対応」

医学部附属病院は9月9日、医療事故防止に関する研修会の一環として、東京海上火災保険(株)医療福祉法人部法人第一課課長代理 齋藤直人氏を講師に講演会を開催した。齋藤氏は「医療訴訟の動向と紛争対応」と題して、近年の医療訴訟の傾向と厳しさを増す医療事故の法的責任について具体的な実例を挙げて講演し、医療従事者約250名が熱心に耳を傾けた。

講演する齋藤氏
＝医学部臨床第一講義室



福村さん(医学系研究科職員)が 金メダル獲得

9月4日、5日に開催された「シンガポール・オープン陸上」に出場した福村羊里子さんが、4×100mリレーで見事優勝、金メダルを獲得した。福村さんは100m、200mにも出場し、両種目とも5位に入賞した。この大会は、アテネオリンピックに出場した男子400mハードルの為末 大選手も出場しており、福村さんは日本代表選手の一人として力いっぱい走り、国内外の選手らと交流した。



優勝した4×100mリレーの日本代表メンバー、左端が福村さん

ミニ講演 若者の職業観～フリーターで大丈夫?～

- 月 日：9月11日
- 講 師：名古 道功 法務研究科教授
- 場 所：金沢大学サテライト・プラザ講義室
- テレビ会議システムによる「金沢大学遠隔講座」
受信会場：寺井町立図書館
- 来場者：37名



公開講座



薬局見学・体験ツアー

主任講師：鈴木永雄 自然科学
研究科教授
＝9月2日、アカンサス薬局



統一から13年経った旧ドイツ
民主共和国の人々の暮らし

主任講師：菊池悦朗 外国語教
育研究センター教授
＝9月4日、大学教育開放センター

生涯生活設計セミナー開催

9月29日、本学、北陸先端大、石川高専に所属する40歳以上の教職員を対象に「平成16年度生涯生活設計セミナー」が開催され、53名が受講した。

今回から新しくグループ実習形式を取り入れたセミナーでは、木曾教育研究所代表の木曾 長氏、教職員生涯福祉財団の鮎川史郎インストラクターらの指導により、参加者は「健康」「生きがい」「経済生活」のテーマごとに、在職中から退職後までを見通した自らの生活設計プランを立案し、発表した。



生涯生活設計の必要性について説明する木曾氏＝金沢市内のホテル

新任係長・専門職員研修

9月28日から10月1日まで、北陸地区国立大学法人等新任係長・専門職員研修が実施され、7機関から39名が受講した。研修はJST基本コースを主体に、共同研究センター瀬領浩一教授の

「業務革新を進める人材」と題する特別講演や「法人化後に実施した業務の効率化策、コスト低減策」に関する全体会議を加え、法人化を意識した内容となった。



「仕事の改善・改革」受講風景
＝9月29日、事務局大会議室

工学部 新任教員対象に研修

工学部は9月8日、4回目となる新任教員初任者研修を実施し、新任教員ら9名が参加した。岡島 厚工学部長による、角間移転の状況や大学全入学時代に向けた大学の取組みをはじめ各講師から説明があった。国立大学の法人化を受けて今回初めて、四柳茂男事務長が「大学の事務の役割、教員との連携について」と題して講話、教員と事務職員等の連携を深め、企画・立案のできる専門性の高い事務職員等の養成の必要性を説いた。



説明する四柳事務長
＝工学部第一会議室

キタダン 「北谷」で稲刈り

一角間の里山自然学校ー

9月25日、角間里山ゾーン「キタダン」の棚田で稲刈りをした。幼児から大人までの参加者約60名は、角間の里山メイト「田んぼグループ」が育てた11枚の田んぼに散らばり、一株ずつ丁寧に刈りとった。「稲刈りは初めて」という人も、稲の刈り方、縛り方を経験者に習い、「ザク、ザク」と刈った。泥から足が抜けず、ひっくり返って泥だらけになった子どももいたが、ケガもなく1時間ほどで稲刈りは終了した。合計で約60kgのモミが収穫できた。今年も田植え、稲刈りなど田んぼづくりに地域の方たちが大勢参加した。キタダンでの棚田復活活動が徐々に地域に根付いてきたようだ。



刈り取りに汗を流す参加者

ほんものはいいねえ

教育学部附属養護学校は9月22日、児童・生徒に生の音楽に触れてもらおうと本学吹奏楽部を招いて「ふれあい音楽会」を開催した。当日は児童・生徒のほか近隣の保育園児らも訪れ、一緒に「ドラえもののうた」や「ディズニーメドレー」などの音楽に手拍子を打ちながら生演奏に喜んだ。みんなが知っている

「世界で一つだけの花」の演奏が始まると、全員での大合唱となった。また、曲名当てクイズ、指揮者体験や楽器の演奏体験もあり、楽しいひとときを過ごした。



吹奏楽部員の指導でトランペットに挑戦
＝養護学校体育館

角間キャンパスにクマ現わる?!

9月に入り県内各地で目撃情報が寄せられていたクマが、ついに角間キャンパスに出没(?)。9月29日午前9時50分頃、中央バス停から国際交流会館方面へ移動するクマの親子を目撃したという情報が金沢市から寄せられた。早速チラシやメールで学生・教職員にクマ注意の情報が流された。



金沢大学標石前の県道沿いに取り付けられたポスター

編 集 後 記

10月に入りひと雨ごとに、秋の気配が感じられるようになるとともに、後期の授業が始まりキャンパスにも活気が出てきました。国立大学法人金沢大学の発足から既に半年が経ち、3月までの立ち上げに引き続き円滑な大学運営のため多忙な日々を送っている方々が大半かと思われます。その甲斐あってか、新生金沢大学としてのあたらしい芽が少しずつ育っているようです。自然界のように春に種を蒔き慈しみ育て実りの秋に収穫をむかえるというわけにもいきませんが、今後も全学の努力で大切に育てることが必要です。(Cha)

平成16年10月15日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ))
(アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。